

社会保障審議会生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会

2012年6月6日(水)10時～12時半

## 問題提起

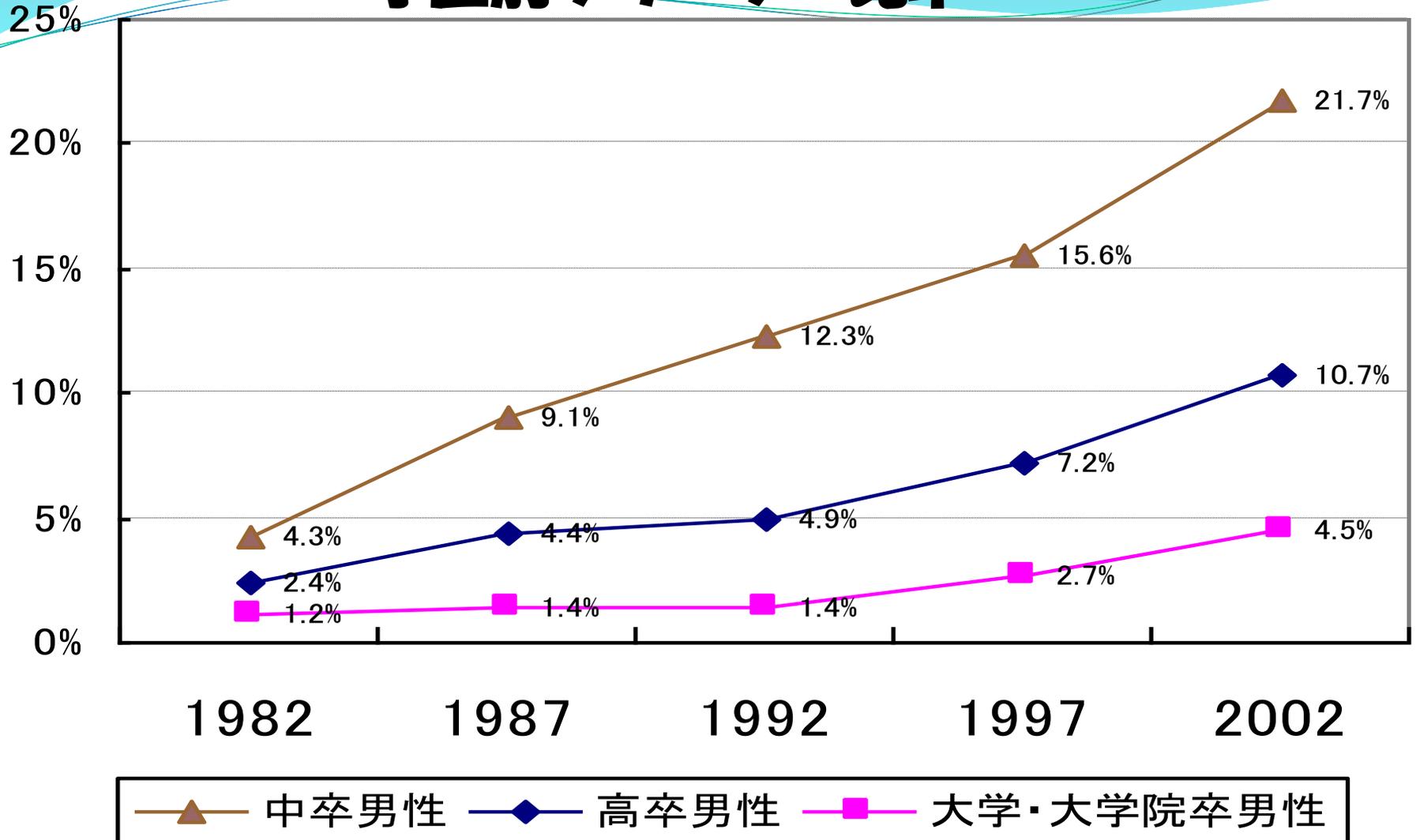
# 若年就労困難者の実態と支援の課題

放送大学 宮本みち子

# 若者就労支援の現場から：就労困難者問題

- 低学歴者の問題：高度化する社会で、高度化に付いていけない  
全体のレベルが上がっているなかで、格差がより際立つ
  - 15～17歳の年齢で社会に出ても、ことごとく挫折して失敗体験ばかりを重ねることが多い→高校中退者問題
  - 支援機関が抱える困難者の特徴：コミュニケーション能力の低さ、自己表現力の低さ、こころの不安定さ、人と交わることの不安、同世代からの孤立  
(内閣府「困難を有する子ども・若者の支援者調査」平成24年3月)
  - 教育・訓練機会に恵まれず、キャリアを形成することができない
- 背景
- 家庭の貧困が背景にある例が少なくない
    - 早い時期に親から経済的自立を迫られる高校生
    - 早期に親に頼られる高校生
  - 低学力・家庭の貧困・親の離婚や家庭崩壊、いじめ、DV  
精神疾患など、現代のあらゆる矛盾を背負っている
  - 自立するに必要な援助を親から得ることができない
  - 親に代わる社会的支援の環境は手薄
  - 支援者は家庭の情報を得にくい

# 学歴別フリーター比率



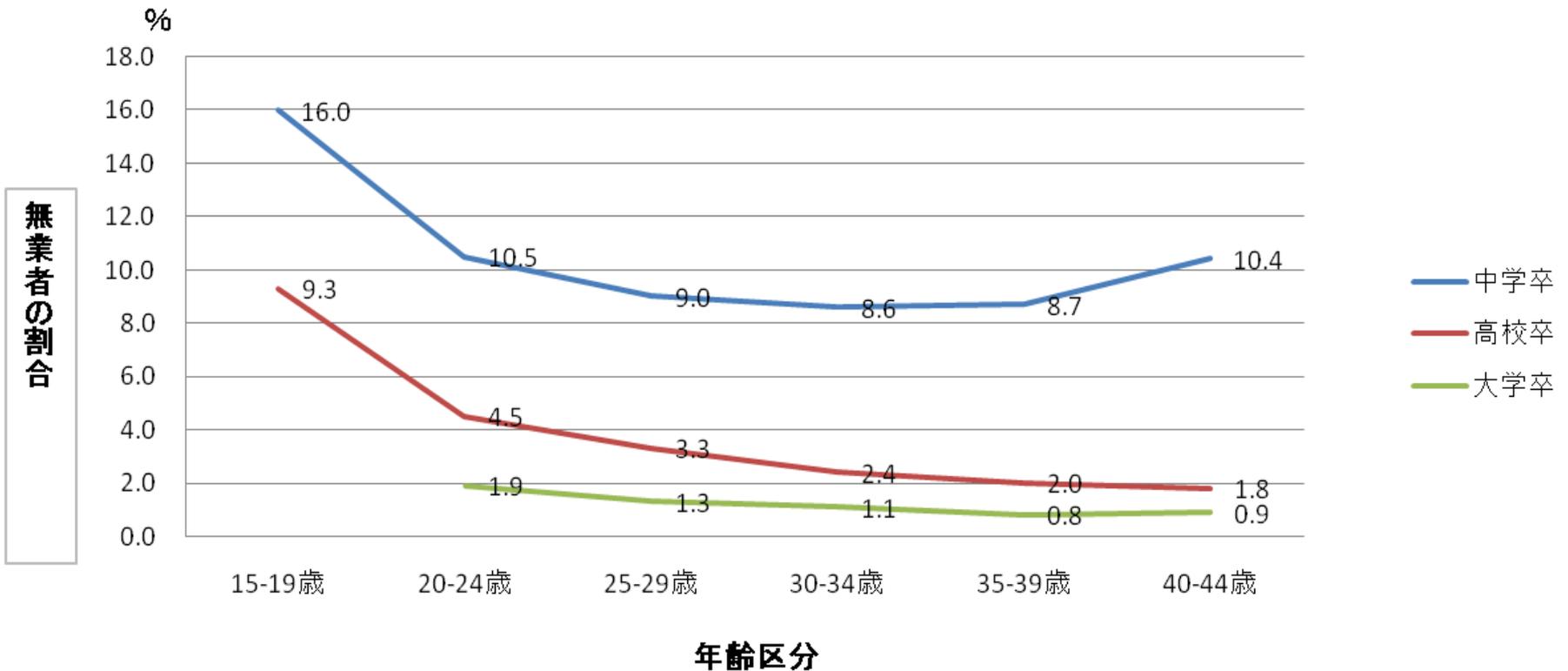
小杉礼子・堀有喜衣 『若者の包括的な移行支援に関する予備的検討』 労働政策研究・研修機構 (2006) より

## ・学歴別生涯賃金(男性)

高卒: 約260百万円、大学・大学院卒: 約300百万円

# 学歴別無業者の割合

○ 学歴が低くなるほど、無業者に陥る割合は高くなり、年齢を重ねても抜け出しにくい。



(資料出所)「平成19年版就業構造基本調査」労働政策研修・研究機構による再集計より

# 困難を抱える若者の状況の把握

- 学校教育の段階を過ぎると、把握が困難
- 現状では、有効な把握の手立てがない

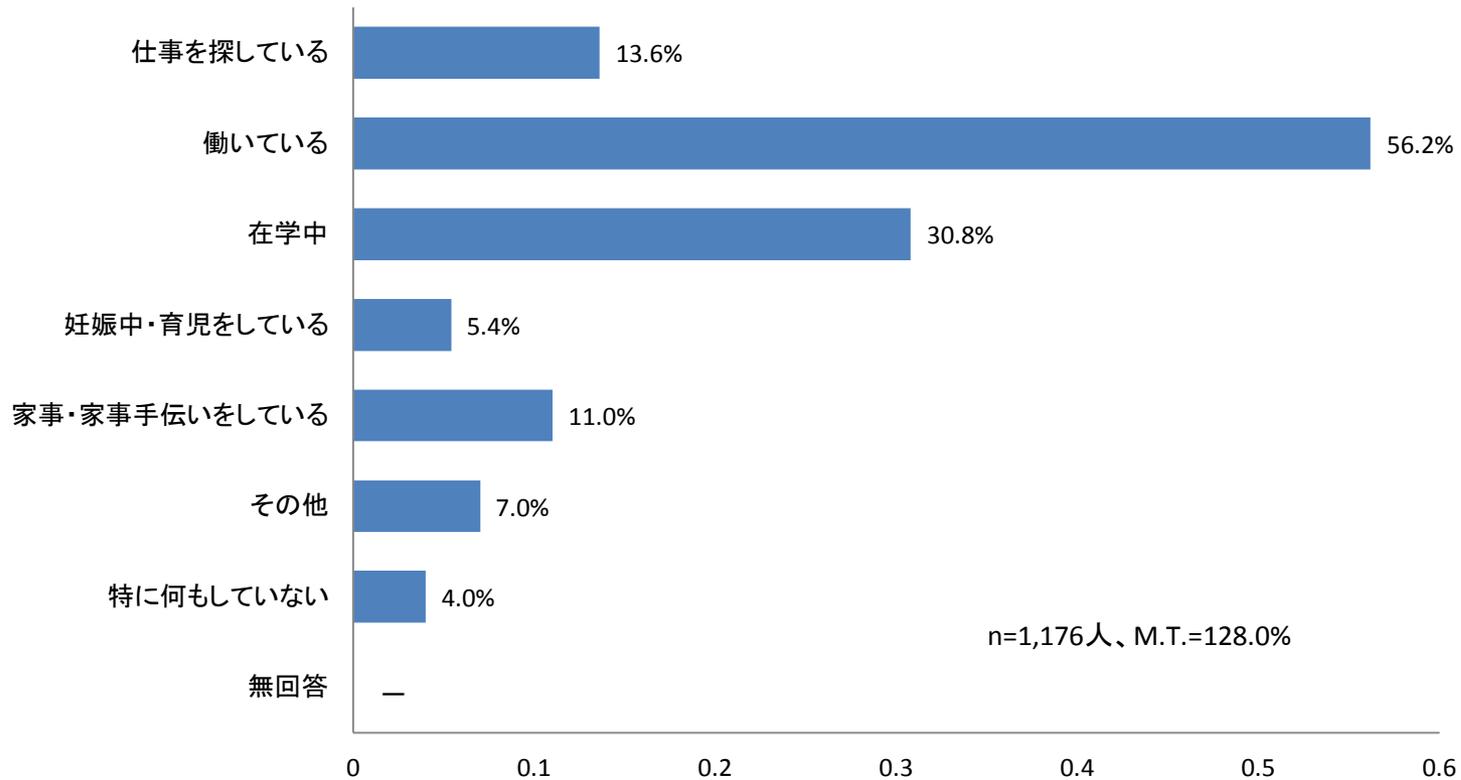
たとえば、高校中退者のその後は  
把握できないまま

2008年3月 内閣府 中退4年後の調査を実施  
回収率が低い

2010年8月 内閣府 中退2年後の調査を実施  
1300名を回収

内閣府「若者の意識に関する調査(高等学校中途退学者の  
意識に関する調査)」平成23年3月

# 現在していること



# 「あなたにとって必要なこと」

進路や生活について何でも相談できる人 66.6%  
生活や就労のための経済的補助 63.1%

会社などでの職場実習の機会 56.3%  
仲間と出会え、一緒に活動できる施設 55.9%  
低い家賃で住めるところ 55.7%

進路や生活などについて何でも相談できる施設 48.6%  
読み書き計算などの基礎的な学習への支援 33.6%

■アルバイトなどの不安定な就労から脱してキャリアを築く社会的に確立した道筋がない

■中退後の職業上の研鑽を積む機会がない

「職業資格を取りたい」・・・約4割

「職場実習を受けたい」・・・5割以上

**学卒と、安定した雇用の間の橋架けが必要**

**就職活動困難な生徒には、在学中からゆるやかに社会へとつなぐしかけが必要**

## ■学力という問題

資格を取ることができないと思う理由  
基礎学力に自信がない(59.0%)

中退理由

勉強がわからなかった(48.6%)

欠席や欠時がたまって進級できそうもなかった(54.9%)

学力不振は中退後も就職に際して明らかに影響する

## 10名の聞き取り調査から

幼少～小学生 複雑で不安定な家庭環境のため勉強できる状態でない。頻繁な引越し、親の離婚・再婚  
親は子どもの学習に無関心  
小2～3の2ケタ足し算、九九の後半、分数・少数がわからない。

中学・・・授業についていけない。勉強に対する関心喪失

高校・・・はじめから勉強はあきらめ。自信のなさ。

アルバイトが中心になる。しかしアルバイトもできない例もある。

その後・・・就職できなくても、アルバイトで働らかざるを得ない

低スキル・低賃金の単純労務市場へ

# OECD加盟国の若者の実態から

26カ国の15, 6歳～24歳のニート比率(失業者および不就業者)

失業リスクが高い集団

置き去り層: 中退、移民マイノリティ、貧困地域、農村部、過疎地  
労働市場への統合が不完全な新規参入者:

安定した技能を有していない: 短期雇用、失業、無業を繰り返す

置き去り層に関しては、早期介入が必要

- 1) 就学前教育
- 2) 義務教育における学力
- 3) 後期中等教育を修了することを支援すること

## ■なぜ後期中等教育の修了が必要なのか？

まず、職を確保するのに必要

今後の就業に際して、または離職に際して、学習できるための  
最低限の要件

出所: OECD 2011, *Off to a Good Start? Jobs for Youth*

## 複合的なリスク要因をもち、最も不利な状況に置かれた若年層の就労問題

- 教育段階でのハンディキャップに対する早期対応
- 中退者：パソコン技術、基本的な技術資格など、労働市場で必要とされる技能の獲得を強化。復学は逆効果のこともある。学校以外の訓練プログラムと労働体験、助言のセット
- 企業の積極的関与が極めて重要。そのため、採用する企業や実習受け入れ企業（中小企業が良い）への補助金も効果
- 高校中退後、安定した仕事に就けない若者に対してはとくに配慮が必要

出所： OECD 2011, *Off to a Good Start? Jobs for Youth*

# 課 題

## ■ 発見の課題：学校と連携すること

学校段階で把握するのが一番

## ■ 学校からドロップアウトさせないための支援

生徒の生活を包括的にみる姿勢

教育＋福祉＋精神保健＋就労のセット

教師と学外人材の連携体制

## ■ 学校から地域へとつなげる支援

地域のどこに？ 中間的な場が必要

学校、雇用という2項区分を前提にしては

ならない

## ■ 学習支援は単独では効果がない。コミュニティにおける重層的な支援ネットワークのなかで機能する

# 「学校から社会へ」の架け橋

**学校と家庭と労働の間を媒介する社会が必要**

## ■ 学び・遊び・つながりの居場所

＝子ども・若者の孤立を防ぎ、学校から社会に繋がるまでの  
継続した受け止めの場

相談・基礎的な学び直し・キャリアカウセンリング

・高校入試支援/ 仲間・スポーツ・遠足・キャンプ…

## ■ 成人基礎教育

例：adult basic education (米) essential skills (英)

## ■ 中間的就労(労働市場)

働くための準備・訓練の場

＝ボランティア・職場体験・職業訓練・トライアル雇用

## ■ 社会への参加

社会的ネットワークの中に入る、社会を創る営みの一端を担う

# 活動を通して 若者の社会への参加を 活性化する

## 方法

- 社会サービスやユース・サービスが若者のための活動を作り出すという方法

若者の労働と社会参加の観点から非営利活動を担う団体を見直し、そこでの活動への参加を通して、学び直しや働くための訓練や社会への参加が可能になる

- コミュニティを活用して若者の動機作りをする

社会教育・ボランティア・社会体験学習などのノンフォーマル学習が、若者の生きる自信や動機付けに有効

**そのためのコミュニティの活用が重要**

# 中間的就労の意味

自立支援の究極の目標は社会的存在としての「私」を取り戻すこと

⇒社会への参加

⇒他者との相互関係のなかで自分の存在意義を実感

日常生活自立⇒〈就労自立〉⇒社会生活自立

## しかし、生活保護受給者の自立支援と異なる事情

若者にとって経済給付の選択肢が少ないため、支援プログラムに参加するインセンティブが弱い::求職者支援制度は条件が厳しい⇒親がぎりぎりまで扶養せざるを得ない。早期支援開始が難しい

# 海外の取り組みを例にして考える

フィンランドのワークショップ

オーストラリアのグリーン・ユー

デンマークの生産学校

- いずれも早期離学、家庭や学力やメンタルな問題を抱えた15～19歳の若者が対象
- 6カ月～2年、10人単位、実習中心の学びの場。参加者には訓練手当を支給
- 職業教育・訓練は、学校や職場内の「閉じた」活動でなく、周囲の社会の生産・消費活動への、ゆるやかでリアルな参加・コミュニケーションの機会にもなることが重要
- 困難を抱える若者の自立支援の目標は、仕事に就くことよりも  
まず「社会に参加させること」
- 学校教育を補完する基礎学力は、リアルな活動と結合
- この段階を経て、復学、職業訓練プログラム、就職などへつなげる中間的労働市場は、社会参加の場として意味をもっている

# **貧困家庭に育つ子ども・若者 複合的な困難を抱える子ども・若者に 教育投資の強化を！**

未来への投資としての社会保障という考え方  
可塑性に富む幼少期～児童期の  
教育・福祉に焦点を当てる  
社会との不完全な接続状態の若者への早期支援

**ポジティブ・ウェルフェア  
(積極的福祉)**